



専門性を一般化していく。 気楽に相談できる地域の リハビリテーションを目指して。

怪我をしない身体づくりが目標。田舎のリハビリテーションが遅れている事に危機感を感じたからもっと身近にトレーニングを取り入れて欲しいんですと微笑む金谷さんにお話を伺いました。



NPO法人 Pro Bono Rehabilitation Services
(プロボノ) リハビリテーション(サービス)
代表理事
金谷 佳和 さん
(かなだに・よしかず)

岡山県和気町出身。趣味は読書で年間200冊は読む。多様なニーズに対応するためには、幅広い知識が必要。休日には子ども達のサッカー教室も指導しているとか。

kanadani1223@yahoo.co.jp

地元を離れて みたかった

高校まで和気で過ごし、家から出たかった事もあり、大学は香川に進学。工学部のある大学で勉強した後、建築資材の会社に4年間勤務。特にしたいことが見つからない学生時代でしたので一般的な就活でしたね。しかし自分の中では何かが違うと思いつながら仕事をしていました。そんな迷いながらの中、弟がしている理学療法士と言う仕事がとても新鮮で輝いて見えただんですね。そう思い始めるといてもたつても居られず、会社を辞めることを告げ、奈良県の理学療法士の専門学校に行くことを決意。しかし簡単ではなく、しばらくは会社員時代の預金をきり崩しながら予備校通いをしました。でも弟の仕事を聞かされた時にやりたい気持ちが出てきて、27歳の時その専門学校に通う事になったんです。

地元の 現実を見て

理学療法士と言う仕事は現代の医療に密接に関わり、今ではかなりの役割を占めています。来院する患者さんの殆どが痛みを訴えている中、お医者様は薬を選んで処方するのが一般的ですが、薬だけでは治らないケースがたくさんあります。症状も様々ですがこうなる前にできることはないのかと考えるようになっただけです。もちろんなつてから治療する事も大切ですがそれでは遅いケースもあるんです。奈良の専門学校を卒業後大阪の総合病院に就職。色々な経験をさせて頂き、結婚を機に生まれ故郷の和氣に帰ることを決め岡山で頑張ることを決意したんです。紹介で行く事になった市内の病院ではリハビリテーションがある程度浸透してきた時期でしたのでかたち的には良い環境だったと思います。ある日、実家のある和氣の病院に挨拶に行くことがあり理学療法士として訪れた時には衝撃でした。たくさんの高齢者が椅子に座っているのを見た時、危機感を覚えたんです。地元になにか貢献したいと強く感じるようになっていったんです。



多くの人に身体づくりの大切さを知ってもらいたい時間の許す限り講演会活動も行なっています。

リミット 限界はない!

地元の病院の先生からの推薦があり、平病院に転勤が決まり、その当時から自分の目指すリハビリテーションの形を目標としてきました。まずは知ってもらうところからでしたが、何人かのスタッフが賛同をしてくれた事もありリハビリテーションセンターの立ち上げにも協力して頂きました。地域に暮らす人が怪我をしない身体作りを目指していけたら、元氣な町になるお手伝いができると思うんです。地域の課題を町民と一緒に解決したいと考えてこの4月には、NPO法人として活動を開始します。これまでの流れで苦勞はありましたが、諦めないことが大切、そして信念をいつも心に持って生きていたら必ず達成できると感じています。